# 非核・いしかわ

事務局／石川民医連労働組合気付
〒920-0848 金沢市京町28-8　TEL076-251-0014　Fax 076-251-3930
ゆうちょ口座 00760-0-15689　年会費3000円（全国紙代含む）

2018年8月20日　月刊第241号　発行／非核の政府を求める石川の会


非核五項目
① 全人類共通の課題として核戦争防止、核兵器廃絶の実現を求める
② 国是とされる非核三原則（つくらず、もたず、もちこませず）を厳守する
③ 日本の核戦場化へのすべての措置を阻止する
④ 国家補償による被爆者援護法を制定する
⑤ 原水爆禁止世界大会のこれまでの合意にもとづいて国際連帯を強化する

**核兵器禁止条約への署名は60か国、批准は14か国（7月末現在）**


1面　核兵器禁止条約の発効には市民社会の運動が鍵！　中野真紀子
3面　「市民と野党の共闘」の発展と革新懇の役割　乾　友行
4面　故・清水正明医師の被爆絵画
5面　核兵器禁止条約　批准国は14カ国に　桝田辰男
戦争の思い出　松浦健伸
オウム死刑囚13人の執行に思う
6面　基礎の基礎は「土づくり」　松浦忠孝
7面　不戦の思い　岩原茂明
〈独標〉八重桜　高久晴美
編集室より
8面　石川の地域点描 シリーズ　中西　優
絵手紙コーナー　田伏久子


## 原水爆禁止二〇一八年世界大会 国際会議 参加報告

# 核兵器禁止条約の発効には市民社会の運動が鍵！

中野真紀子

八月初旬に広島で開かれた原水爆禁止世界大会の国際会議（二～四日）に非核の政府を求める石川の会を代表して参加しました。「はだしのゲンをひろめる会」の江守道子さんも連続三回目の参加で、海外寄贈運動のお手伝いをさせていただきました。

この一年間の大きな出来事は、核兵器禁止条約の調印（六〇か国）と批准（一四か国）が進んだこと、緊張が高まっていた米朝関係が対話モードに反転し、朝鮮半島の非核化が視野に入って来たことです。一方で、トランプ政権は核戦力の増強をめざし、他国にも軍拡の動きが広がっています。核兵器は人類とは共存できないという被爆者の訴えにもかかわらず、既存の勢力均衡を維持する究極の抑止力として核兵器が維持されています。核抑止力の幻想を覆し、核兵器禁止条約を発効させる方策を話し合う会合でした。

初日は運営委員会代表のあいさつの後、日本被団協事務局次長の大下克典氏が、被爆者の証言の重要性が増していると強調しました。

午後から本格討論が始まり、第一セッションでは広島・長崎の証言が行われました。多数の被爆者を診てきた医

全身やけどの若い女性の姿

（故・清水正明氏の被爆絵画　関連4頁）

**【お知らせ】**
八月五日、野々市フォルテで開かれた前川喜平さんの講演要旨は本号の号外として同時発行しました。

## 花鳥風月

バブル経済の崩壊からすでに三〇年に近い日本の世相を振り返ってみると、いまや**労働力の「萎縮」が社会の諸現象の根底を揺るがしている**ことが分かる▼例えば、少子化＝人材不足といわれる時代的状況だ。これは「労働力の社会的再生産」という社会の存立に不可欠な基盤が毀損された社会制度に原因がある。外国人労働や非正規労働は異常に拡大し、「高プロ導入」などという労働法制の非人間化までも政府の手で公然と進められる始末だ▼また、一九五〇年代からの都市圏の空間的拡大（スプロール）が、一九九〇年代からは、拡大する都市の縮小（コンパクト）へとシフトしつつある一方、産業のグローバル化のもと、製造業の海外流出は激しく、他方で、産業構造の変化と大都市圏への過度な集中は進み、総じて地方経済の空疎化は暗澹たるものがある。さらにこの間、都市のスプロール化は農業生産の減退を招き、限界集落の多発で都市機能の維持も破たんしている▼こうして見ると、わが国では、いまこそ、なにはさておき**「萎縮」する労働力を「溌剌」たる労働力に転換する時**であり、そのためにも、地域経済の再生が必須であることは言を俟たないであろう。（こ）

**国際会議で「核兵器のない世界」の実現へ熱い議論を交わす国内外の皆さん**

師が、原爆の多重の非人道性を指摘しました。無差別大量殺人であるというだけでなく、地域の社会と制度が一瞬に消滅し、生き残っても就学や就職の機会も失い、生涯を通じて放射線被ばくによる健康被害に苦しみます。「生物兵器」や「化学兵器」と同様「核兵器」も非人道的兵器として廃絶すべきです。そこに生きて生活していた人々の生の体験を伝える点では、漫画「はだしのゲン」も同じ役割を負っていると言えましょう。

第二セッションのテーマは、核兵器廃絶を進めるうえでの市民・運動の役割、核抑止力論の克服などです。米国では、二月にトランプ政権が核戦略見直し（ＮＰＲ：今後の安全保障戦略における核兵器の役割を策定する）を発表し、二〇一〇年のＮＰＲでオバマ大統領が打ち出した核軍縮の方向からの反転を明確にしました。核先制攻撃を容認し、小型の新型核兵器を開発する方針は、核軍縮交渉を崩壊させます。英国も核兵器システムを更新。フランスも現政権は軍拡支持ですが、国民の過半は非核を支持しており、市民運動が重要です。

一方、朝鮮半島は重要な岐路にあります。韓国のフワン・スヨン氏によれば、北の核武装は朝鮮戦争が終結せず不安定な停戦が続いた結果です。米韓合同軍事訓練の威嚇と、莫大な軍事支出に耐えきれず、核やミサイルに走ったのです。朝鮮半島の完全な非核化のためには、核抑止力に依存する軍事戦略の放棄が双方に求められます。韓国や日本も「核の傘」を捨てる覚悟が必要です。その実現には市民社会の運動が鍵を握ります。原水協事務局長は被爆者国際署名運動の重要性を訴えました。

二日目の第三セッションは、幅広い分野の市民運動との連携がテーマです。ロシアのオレグ・ボドロフ氏は、バルト海周辺諸国に林立する原子炉の分布図を示し、この地域の軍事衝突は破滅的な自然破壊を引き起こすと警告し、軍事用も平和利用も同じ原子炉として手厚く保護されるロシアの原子力産業の事情を語りました。米軍基地を抱える各国の実情も紹介されました。フィリピンでは米軍基地は返上したものの、自国軍と米軍の協力が進み、結局は米軍のために基地建設を進めています。「ポスト米軍基地」問題への戦略が必要です。沖縄では昨年九月ＮＨＫの番組が暴いたように、最高時で一三〇〇発もの核兵器が配備されていました。復帰後も日米の密約で核兵器貯蔵庫は温存されました。辺野古の新基地がグアムのような米軍の出撃基地となることも危惧されます。基地新設に反対して形成されたオール沖縄に、九月の県知事選で連帯が必要です。

午後は第三セッションの分科会に参加しました。インドの環境活動家が世界的な反核運動の歴史を振り返り、その多くは原発と核兵器の両方に反対したこと、放射能汚染の問題は先住民や少数者への社会文化的な抑圧と不可分の環境正義の問題だと指摘しました。気候変動危機を契機に第三世界で生まれた環境正義運動は現在の世界で影響力が大きく、この連帯は重要だと思いました。

最終日の四日、各分科会での議論の報告の後、今後の核兵器のない世界を目指す運動の指針となる国際宣言が採択されました。

核兵器禁止条約の一刻も早い発効をめざし、二〇二〇年のＮＰＴ再検討会議において第六条が核保有国に課している「全面的かつ完全な軍備縮小」の実行を強く迫ること、また北東アジアでは平昌に続き東京・北京とオリンピックが連続開催されるので地域平和体制の確立に役立てたい、等が盛り込まれました。

講演要旨

# 「市民と野党の共闘」の発展と革新懇の役割

全国革新懇事務室長　乾　友行

革新懇運動の役割を説く乾友行さん

七月二一日（土）午後、平和と労働会館にて石川県革新懇の第三三回総会が開かれ、総会終了後に標記テーマの学習会が持たれました。講師は全国革新懇事務室長の乾友行氏、各地域・団体から四〇名が参加しました。

・・・・・・・・・・

講師の乾さんは「最初に、安倍自公政権の悪政に対して市民と野党の共闘が進んでいるが、その更なる前進のための革新懇の役割は何かを明らかにしたい」と講演の主旨を説明して本題に入りました。

## 「市民と野党の共闘」は何を掲げた共闘であったか

戦争法廃止を軸にした立憲主義の破壊・国政の私物化に反対する保守層も含めた広大な共闘であると定義し、「安倍は保守ではない、ただのバカだ」とのある幹部の表現を引き、閣僚二〇名中一二名が日本会議メンバーで占められている実態を示しました。そして戦争法が成立した直後、国会を包囲するデモの中でシールズメンバーが「選挙に行こう」とコールを始めた事態を見て、単に要求実現を求めるにとどまらない政治を変えることを目的にした共闘に発展してきている。それは国政の根本問題にかかわる領域＝日米安保体制に風穴を開けるような可能性を持った共闘であることを強調しました。

## 共闘破壊の企てとたたかい、守り、鍛えたのは市民の運動

衆議院選挙直前に民進党解体・希望の党への合流という事態を深刻に受け止めた。その時、困難に直面した市民は「リベラルに戻れ」と街頭に出てコールし、「枝野起て！」とメールを集中させて新たな流れを作って踏ん張らせた。また、自党の候補者を降ろして民主主義を守った共産党の英断にも感謝の意を表した事実など、共闘を守り鍛えたのは市民運動であったと評価しました。一方でこうした障害をどう見るかと問い、政治の裏で日米支配層が本気でかかってきていると見る必要があると指摘しました。

共闘の相手が揺れ動くというのは、もともと理論的にしっかりした足場を持たない限界を持った「政党」と共闘しているのだと考えて、ある幹部の表現では「子育てのような」おおらかな気持ちで見なければならないとも指摘しました。

## 今の共闘の到達点は、破壊攻撃を乗り越えて発展している

今国会で次々と繰り出される悪政に「追求型」野党共闘で力を発揮し、本来の戦争法廃止、共謀罪廃案、働き方法案阻止にとどまらず、原発ゼロ法案から子育て支援、夫婦別姓、水害被災者支援まで二一本の共同提案法案を出すなど豊かな広がりをもった内容になっている。その上で、われわれが求める〝本気の共闘〟にはまだ距離があり、市民の声がいよいよ重要になっているとも指摘しました。

## 「市民と野党の共闘」の発展と革新懇の役割

以上のような共闘の到達点から、どういう日本を作るのかと言う「政権構想」を作るような発展を期待したいとして、本来の革新懇運動がもっている役割を強調しました。

革新懇はぶれない軸を持ち、市民運動を横で束ねる役割があり、草の根の組織力があり、地域では生活に関わる全ての要求を束ねる運動へと発展させる可能性を持っている。そういう意味で「安倍九条改憲ＮＯ！三〇〇〇万署名をやり遂げること、選挙は地域が主戦場だと訴えました。

・・・・・・・・・・

講師の乾氏は、全国革新懇事務局にいて首都圏の東京、埼玉、神奈川や関西圏など全国各地の運動の実情に触れ、具体的な実践例を豊かに紹介されました。全国の革新懇運動の息吹を感じさせるタイムリーなお話でした。

（非核・いしかわ編集部）

## 輪島市・清水正明医師の14作目の被爆絵画
# 「全身やけどの若い女性の姿」に寄せて

昨年（二〇〇三年）、ＮＨＫ広島放送局と広島市に寄せられた原爆の絵は一〇〇〇枚を越えた。応募者の平均年齢は七五歳。多くの方が、原爆について絵を描いたり、証言を残すのは初めてだと言う。家族にさえ、あの日の記憶を語ってこなかったという人も少なくない。それは、思い出すにはあまりにつらい記憶であるからに他ならない。八六歳を過ぎてはじめて原爆の絵を描いた男性は、「原爆がもたらしたものはあまりに酷かった……思い出すので、ずっと思い出すといてもたってもいられなくなることを避けてきた。今は忘れたくて忘れたくてしようがないものを描いている」と原爆の絵を描くつらさを語った。

2003 年にＮＨＫ出版が発行した「原爆の絵・ヒロシマの記憶」

石川県輪島市に住む清水正明さんも、今まで描きたくても描けなかった光景を絵にした一人だ。陸軍の将校だった清水さんは、八月六日、爆心地から四キロの地点で被爆。救援のために爆心地に向かった。市の中心部からは、熱線で全身を焼かれ皮膚がスダレのように垂れ下がった人々が、幽霊のように両腕を突き出しながらぞろぞろと歩いてくる。清水さんの目の前を苦しみながらさまよう若い女性は、もはや人間の形をなしていない。手の施しようはなく、死を避けられないのは明らかだった。

「被爆した人たちに対し、何もできなかった。私はそのとき医者じゃないもんだから。ただの軍人の私には、傷の手当をすることもできなかった。できたのは水を飲ませてあげることだけですよ。それが情けなくて……」

戦後、ふるさとの輪島に帰った清水さんは学校に入り直して医師となった。そして、広島を遠く離れた輪島の人たちにもあの日の体験を伝えようと、二〇年ほど前から原爆の絵を描き始めた。忙しい診療の合間に少しずつ描きためた絵は一三枚にのぼる。しかし、皮膚と肉がスダレのように垂れ下がったあの若い女性の姿はどうしても描くことができない。目を背けたくなるほど無惨に傷ついた姿。何もしてあげられなかった後悔。それは描くにはつらすぎる場面だった。思い出したくない……忘れたい。清水さんは、とうとう描くことができないまま絵筆を置いた。

平成一四年、清水さんのもとにも「原爆の絵」募集の知らせが届いた。二年前に脳梗塞で倒れた清水さんは、右腕の自由がきかない。もはや絵を描くことは不可能だと絵の募集に応じるつもりはなかった。しかし、自分はもうあと何年かしか生きられないのではないか。八四歳になっていた清水さんは、自分にしか残せない光景を伝えなければならないと考えるようになった。そのとき頭に浮かんだのは、忘れようとしながら決して頭から離れることのなかった、若い女性の姿だった。清水さんは左手に絵筆を握り、キャンバスに向かった。

正視に耐えない姿にされた人間の断末魔を伝えたい。清水さんは、皮膚が無惨に垂れ下がる様子を納得いくまで描き直した。「おそらくこの絵の女性は、数分か数時間後には亡くなったでしょう。これは原爆がもたらした究極の人の最期の姿です」

絵を書き上げるまでキャンバスに向かい続けた二か月間。清水さんは、目を背けてきたあの日の記憶と再び向き合った。

◎本稿はＮＨＫ広島放送局が編集した『原爆の絵―ヒロシマの記憶』より転載しました。

**【会報「非核・いしかわ」二〇一四年八月号・編集室よりを再掲】**

二〇一四年原水爆禁止世界大会に参加した時、ＮＨＫ広島放送局の「被爆七〇年企画／平和アーカイブ展」で、輪島市の被爆医師、清水正明さんの絵画が『原爆の絵』（ＮＨＫ出版）に収載されていることを知った。熱線で全身を焼かれた若い女性の姿が描かれており、清水さんが八四歳の時に描かれたものである。清水さんが輪島市に寄贈し、現在本紙でシリーズ掲載している被爆絵画は一三点である。最後の一枚として描き残された一四点目の絵画も本紙で紹介できないだろうか。

・・・・・・・・・・・・

◎今夏、県庁一九階展望ロビーの「平和のパネル展」にて『原爆の絵―ヒロシマの記憶』に出合う機会があり、本号に紹介することができました。

## 非核・平和のひろば

### 核兵器禁止条約 批准国は一四ヵ国に

核兵器は人道法の原則に反しているとして、製造や使用、保有、威嚇を禁止する核兵器禁止条約が国連で採択されて一年。現在までに同条約に署名した国は六〇カ国です。発効には五〇ヵ国以上の批准が必要です。七月三一日にニュージーランドが国連事務総長に批准書を寄託し、批准国は一四カ国となりました

**【批准国】**

ガイアナ、タイ、バチカン、メキシコ、キューバ、パレスチナ、ベネズエラ、パラオ、オーストリア、ベトナム、コスタリカ、ニカラグア、ウルグアイ、ニュージーランド

出典：国連加盟国の条約への署名・批准状況は、核兵器廃絶国際キャンペーン（ICAN）のウェブサイトで閲覧できます。

## 非核石川の会リレーエッセー

### 戦争の思い出

舛田辰男

私は一九四〇年に生まれました。その翌年、一二月八日ハワイ真珠湾攻撃が行われ、第二次世界戦争が開始されました。

私は七人兄弟の四番目に生まれ、産めよ増やせの時でした。食べものもだんだんと少なくなってきました。私の家は農家で米がありましたが、軍隊に持っていくんだと父親は子ども達にあまり食べさせてくれませんでした。子どもながらに田んぼの手伝いを毎日させられました。牛やにわとりも家で育てていました。

ある日、村の友だちと一日中遊んでいて、仕事をしなかったことがありました。家に帰ると父親が怒って蔵の中に閉じ込めて、食事もくれませんでした。その時、母親が重い蔵の戸をそぉーと開けて私に塩のついたおにぎりをもってきてくれました。なんとおいしかったことか、今でも思い出します。

戦争もだんだん厳しくなり、夜になると家の横に掘った防空壕の中に家族みんなで入りました。なんと熱かったことか、毎日続きました。

兄や姉は学徒動員で工場へ行っていました。夜は米軍の爆撃機B29が私たちの家の空を大きな音を出して旋回します。富山の市内が戦火に遭い、焼けているのが家の前から見えました。

一九四五年（昭和二〇年）八月、村の人たち全員がお宮さんに集められました。私の家もラジオがなかったため、子どももみんなお宮さんに行きました。ラジオはガーガーという音しかしなかった。何を言っているのかわかりませんでした。誰かが戦争が終わったんだと言っていました。なんだかほっとしました。

国民小学校に入学した時は壁がぼろぼろに落ちかけており、運動場はいも畑でした。

### オウム死刑囚13人の執行に思う

松浦健伸

七月法務省は、六日七人、二六日六人とオウム真理教元幹部ら一三人の死刑を執行した。ニュースを知って衝撃を受けた。法務大臣は淡々と「法の定めるところに従い対処」と述べた。

自分は死刑制度に反対である。このニュースを知りその思いを強くした。理屈というより感情的にである。一三人を死刑にして、何かが変わったのだろうか。この事件から人々は何を学んだのか。社会は〝安全〟になったのだろうか。ほとんど否と思われ、むなしさがある。むしろ日本はもっともっと危険な状況に入り込もうとしているのではないか。確かに大変な事件である、その償いも必要である。しかしそれは死をもってしか行えないことなのか。

菊池寛の小説に『恩讐の彼方に』がある。若侍の主人公があやまって主人殺しの大罪を犯し、逃亡のはてに出家する。諸国遍歴の途中、難所の絶壁をくりぬけば多くの人々が安全にそこを通り抜けられると一人一九年間にわたって岩を砕き続ける。主人の息子がついにその敵（かたき）を発見したが、貫通するまで待ってくれと言われ待つうち、一緒にのみをふるうことになる。二人はさらに一年半掘り続けついにやり遂げ、最後はすべてを忘れて二人で涙する。

相模原の障害者殺傷事件から二年がたった。一九人もの入所者の命が奪われた。植松容疑者は現在精神鑑定中だが、責任能力ありと判断されれば、判決はおそらく死刑だろう。しかし植松を死刑にさせないで更生させるという考え方もある。もちろん彼の主張を是認することになってはならない。ただ死刑になったとしても、彼は〝ヒーロー〟のままではないだろうか。彼

を優生思想の〝生き証人〟として、優生思想そのものを我々は考える必要がある。ちょうど自民党の議員がＬＧＢＴの人への行政支援を「生産性がない」という理由で否定する論評をした。

人権を守ること、それが平和への確かな道である。

## 基礎の基礎は「土づくり」

松浦忠孝

あるテレビ番組で、「近年、日本の大学では、基礎研究よりも、すぐ役に立つ応用研究に予算が重点配分されるようになってきている、基礎研究軽視では、早晩日本の技術力は遅れをとり、日本の国力は減退することになろう」と警鐘を鳴らしていた。

私は少々野菜作りをしている。よい実りを得るためには、土づくり、優良な種・苗の選定、肥料や水やり、温度管理、病害虫対策等々、様々な対策対処に注力する必要があるが、なんといっても基礎の基礎として一番重要なのは「土づくり」である。地上部が育ち、実りを得るためには、地下部分で根がしっかりと張れるような土がつくられている必要があるのである。

現役時代、勤務先企業の「成果主義賃金制度」の設計を命ぜられたことがあるが、刈り取った成果だけを評価して賃金を決めていく業績評価システムを続けていると、その企業・組織は早晩衰退するとの危機感を抱いた。

刈り取った「実り」だけで評価する賃金制度であるから、誰も「土づくり」など、表に見えないことには尽力しなくなる、職場でじっくりと人材を育成するようなこともしなくなる、優れたノウハウを発見しても職場の他人には教えない、こういう状態になってしまうのである。経営者も、企業を基礎から育成して、その結果として利益を得ようとするのではなく、本業以外の金融的手法で手っ取り早く利益を上げるとか、リストラによる人件費削減で利益を出そうとする。「目先の利益」至上主義が企業を覆いつくしていくのであるから、見る見るうちに企業、産業は衰退していく。今日の電機産業はその典型である。

原発再稼働、労働法制の大改悪、異常気象頻発要因の温暖化、将来不安起因の少子化進行、核兵器禁止条約に対する日本政府の態度、これらの根底には支配層の目先利益至上主義がある。新自由主義下の資本主義では地球も日本社会も持たなくなってきており、自公政権では打開不能、という姿が顕在化してきているのである。

（会員外投稿）

## 不戦の思い

岩原茂明

**トモダチの請求額に見る格差**
**原発稼働祖父の血をひく世論無視**
**汚染水で五輪を回す東京水車**

故岡田一杜さんが、亡くなられる少し前二〇一三年に吐かれた句の一部である。私を含めフクシマのことを詠んだ句は、二〇一三年にはだんだんと減っていた。そんな中で岡田さんは、悲痛なまでに放射能を詠み続けていた。

岡田一杜は、本名を山川健二というのだが、晩年「どうして、岡田という柳号をつけられたのですか？」と訊ねた私に、一通の書類を見せてくれた。それは、彼が長崎の爆心地から一・二キロのところに居ながら、その証明が不完全だからと石川県知事中西陽一が被爆者手帳の交付を却下した書類であった。

しかも、その書類の表紙には「岡田一杜方　山川健二」となっている。「これはどういうことでしょう？」とさらに訊ねると「いや、俺は岡田一族なんだ」といった。亡くなられてから知ったことだが、実際ご親戚に岡田さんという方がおられる。しかも親しい。

そんな岡田一杜の無念。

そこは戦後生まれの私の想像を絶するものである。戦時中に生れた方は、きっとそういう壮絶な思いをもっておられるのであろう。

しかし、その体験は私たちにはない。これは真似はできない。ない者は無いものなりに、不戦の志を掲げていきていこうと思う。

（全日本川柳協会常任幹事）

## 詩人会議かなざわ「独標」より

### 八重桜

髙久晴美

八重桜が満開の四月二十日
気温が二十度を越えた

美しすぎる長女が「そめいよしの」
どことなく艶っぽい
「しだれ桜」の二女
愛嬌のある「八重桜」が末っ子
公園で競い合う三姉妹

今年の早かった桜に
温暖化という言葉や

異常気象が常套句
口先だけの省エネも

近頃色褪せて
二十四時間営業が
日本国中必要ですか
休むことなく流されるテレビは…

八重桜は
今年の夏も暑いだろうと
知っているのかな
丸い笑顔で
ふわりと揺れた

## 《編集室より》

◎安倍晋三首相は六日の広島での平和祈念式典で、国連で採択された核兵器禁止条約に一言も触れず、「核兵器のない世界の実現に向けて、粘り強く努力を重ねていくこと。それは、わが国の使命です」と挨拶し、あたかも〝核兵器廃絶〟に努力しているかのような言葉を並べたてました。

しかし、首相の挨拶は、松井一実広島市長が平和宣言で、核兵器禁止条約を核のない世界の実現の「一里塚」にしてほしいと訴えたのも無視し、同条約にも、南北首脳会談・米朝首脳会談の実現など朝鮮半島の非核化に向けた動きにも全く触れない、空疎なものでした。

それだけではありません。首相は「核軍縮の考え方の違いが顕在化している」として、核兵器保有国と非保有国の「橋渡し」に努めるなどという、従来の立場に固執する姿勢を表明したのです。

だいたい「橋渡し」どころか政府は昨年、同条約の交渉会議に出席せず、核兵器保有国の立場に立って〝核兵器廃絶〟を妨害してきたのが実態でした。国連本部で開かれた同条約の交渉会議では、欠席を嘆くメッセージを添えた折り鶴が机に置かれていました。これは日本政府の非協力的な姿勢を象徴する出来事となりました。

「三年間、答えがほとんど変わっていない」。同日の「被爆者の声を聞く会」での安倍首相らの対応を、被爆者団体代表らが厳しく批判しました。また驚くべきことに、この席で首相は、日本政府として同条約に署名・批准しないという立場を改めて明言しました。同条約の採択や朝鮮半島情勢の進展など、世界は大きく進化しているのに、安倍政権の姿勢には何の変化もありません。

首相はこの間、核兵器の「非人道性」を強調し、「被爆者の方々に寄り添い」などという言葉を繰り返しました。しかし、核兵器廃絶に背を向け、多くの原爆症患者の認定に不熱心なことは、首相には二度の核兵器使用で明らかになった「非人道性」への反省も、被爆者に寄り添う気持ちも持ち合わせていないことを如実に示しています。

**「あなたがここにいてくれたら」と書かれた『折り鶴』が置かれた空席の日本政府席**

そもそも安倍首相は〝核兵器廃絶〟どころか、「使える核」を配備し、新たな核軍拡競争を引き起こしかねないトランプ米政権の核政策の指針「核体制の見直し」（ＮＰＲ）への盲目的支持を表明しています。米国の「核の傘」に無条件に、ただただ付き従っていきたい、というのが本音です。

「あなたは一体どこの国の総理大臣なのか」という声が挙がるのは当然です。

核保有国に気兼ねして何も言えないこの国の政府を、悲惨な被爆体験を世界に訴えて同条約に署名する被爆国に相応しい政府に変えるために、「ヒバクシャ国際署名」や「安倍九条改憲ＮＯ！三千万署名」などの運動を広げ、市民と野党の共闘で、新しい政権をつくる道しかないことが、一層浮き彫りになっています。

核兵器と人類は絶対に共存できません。核兵器で威圧し合う、古い時代を人類の英知と努力で一刻も早く終わらせねば、人類の真の進歩はいつまで経っても訪れません。（中）

◎二〇一五年に採択された国際気候変動枠組み条約ＣＯＰ21のパリ協定など、「人為」が破滅につながることのないためにグローバルな資本主義に対して決定的な影響を行使している「環境政策」は、一九世紀からの世界的進歩と言えるだろう▼野口義直氏（摂南大学准教授）は、「…しかし、石炭火力発電事業や原子力発電事業の価値減少を避けるため、一国的独占的地位を利用して再生可能エネルギーを排除するならば、日本資本主義は『老衰してますます時代遅れに』なるだろう」（『環境問題と二一世紀資本主義』雑誌「経済」五月号一〇六頁）と述べる▼こうした動きの中で、「人為」が破滅につながることのない人間社会のために、影響力を行使する核兵器禁止条約などの「非核政策」は、二一世紀人類が果たすべき未来への責務であろう。（こ）

## シリーズ 石川の地域点描 24

フォトグラファー　中西　優

七月下旬から八月上旬にかけて、河北潟のひまわり村では三五万本のひまわりが一気に花を咲かせ、見渡す限りの黄色の大地になります。「ひまわり＝日回り」とも表記されるように、若いころは太陽を追いかけて動き、開花するころには基本的に東を向くという習性があるそうです。そのために夕焼けを背景にしたこのような写真も撮れるのですね。

（写真説明）
河北潟ひまわり村（津幡町）

## 絵手紙コーナー

金沢医療生協絵手紙班
田伏　久子

## 非核・平和の掲示板

| 月 | 日 | 曜 | 時 | 内　容 | |
|---|---|---|---|---|---|
| 8 | 上映中～31(金) | | | 映画「沖縄スパイ戦史」 | 金沢市香林坊・シネモンド |
| | 21(火)～24(金) | | | 「原爆と人間展」川北町パネル展 | 能美郡川北町・川北町文化センター |
| | 22 | 水 | 12:50 | 安倍内閣退陣！『怒りの昼デモ』 | 金沢市広坂・いしかわ四高記念公園教育会館前口 |
| | 23 | 木 | 18:30 | 非核の政府を求める石川の会30周年記念祝賀会 | 金沢市大手町・KKRホテル金沢 |
| | 25 | 土 | 13:00 | 2018年夏の交流研究集会「今、ここにある希望」<br>講演「女性の働きづらさを考える」萩野美穂子さん | 金沢市富樫3丁目・教育プラザ富樫211研究室 |
| | 25(土)～26(日) | | | 日本母親大会in高知 | 高知県高知市内 |
| | 26(日)～27(月) | | | 自治研・能登の里山里海「産廃処分場と人口減少問題を考える」 | 輪島市門前町大釜地区・他 |
| | 28(火)～30(木) | | | 平和サークル むぎわらぼうし「福島を視る・聴く・心に刻む」ツアー | 福島県三春・浪江・南相馬・飯館・裏磐梯など各地 |
| | 29 | 水 | 18:30 | 原水爆禁止世界大会報告会 | 金沢市京町・勤医協会館ビル3階 |
| | 30 | 木 | 18:30 | 市民連合カナザワトーク④「観光都市カナザワ宿泊税ってなに？」 | 金沢市青草町・近江町交流プラザ4階 |
| 9 | 2 | 日 | 11:00 | 九条の会北陸ブロック第9回交流集会　記念講演 大河内美紀さん | 福井市大手2丁目・福井県教育センター |
| | 4 | 火 | 18:30 | 原発をなくする石川県連絡会総会 と8年目の福島<br>「8年目の福島を視る・聴く・心に刻むツアー」写真で視る報告会 | 金沢市青草町・近江町交流プラザ4階 |
| | 6 | 木 | 12:30 | 核廃絶署名6・9行動 | 金沢市武蔵町・Mza前 |
| | 8(土)～9(日) | | | 新日本婦人の会『いわさきちひろ生誕100年記念』バスツアー | 長野県安曇野・無言館・松代大本営など |
| | 15 | 土 | 13:00 | 石川のうたごえ交流会 | 白山市・学習交流センターホール |
| | 22 | 土 | 15:00 | 南の風～フェーぬ風に載せて　会沢芽美語り&うたごえ | 金沢市香林坊・石川県教育会館2階 |
| | 24 | 月・休 | 11:00 | 国連・核廃絶デー「ヒバクシャ署名」行動 | 金沢市青草町・いちば館前 |
| | 24 | 月・休 | 13:30 | 核戦争を防止する石川医師の会<br>国連・核廃絶デー「被爆ピアノコンサート」 | 金沢市三社町・石川県女性センター・ホール |
| | 29 | 土 | 13:30 | 原発をなくす石川県連絡会講演　原自連幹事 三上 元さん<br>「自然エネルギーの推進へ・原発ゼロ基本法案の内容と意義」 | 金沢市香林坊・石川県教育会館3階ホール |
| 10 | 14 | 日 | 14:00 | 金沢紫金草合唱団18周年記念コンサート | 南砺市北川・いなみ木彫りの里創遊館（道の駅井波） |

＊祝日は休日とします　＊毎週金曜日18：30どいね原発アピール行動 金沢駅兼六園口　＊毎月15日石川県沖縄連帯デー（8月15日は休宣）